OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	浜渦辰二教授　研究業績一覧
Author(s)	
Citation	メタフュシカ. 2018, 49
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/71238
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

浜渦辰二教授　研究業績一覧

Ⅰ．著　書

【単著書】

1. 『フッサール間主観性の現象学』，創文社，1995.2，pp.1-352
2. 『可能性としてのフッサール現象学』，晃洋書房，2018.3，pp.1-487
3. *On Development from Husserl's phenomenology - Between Phenomenology of Intersubjectivity and Clinical Philosophy of Caring* -, Graduate School of Letters, Osaka University, 2018.3, pp.1-310

【共著書・分担執筆】

1. 柏田康史・浜渦辰二・末吉康幸・広川明『哲学するために』，北樹出版（分担執筆：「第 2 章　他者」，1991.5，pp.45-97
2. 金子晴勇編『人間学―その歴史と射程―』，創文社（分担執筆：「7　人間と歴史」）1995.4，pp.213-227
3. 吉村仁・竹内浩昭・中桐斉之編『脱・環境ホルモンの社会』，三学出版（分担執筆：「第 3 章　ヒトに与える影響，第 5 節　キレる子どもたち」「第 4 章　生物と環境，第 3 節　生物から見た環境」「第 5 章　地球環境と未来，第 2 節　脱・環境ホルモンの道」）2002.4，pp.73-81，pp.99-103，pp.111-114
4. D*ie erscheinende Welt. Festschrift für Klaus Held*. Hrsg. von Heinrich Hüni und Peter Trawny. Duncker & Humblot, Berlin（分担執筆：“Zur Phänomenologie des Unsichtbaren: Husserl und Heidegger”）2002.12, pp.725-736
5. 静岡大学教養教育「哲学・思想分野」分科会編『哲学思想への誘い』，教養教育「哲学・思想分野」分科会（分担執筆：「第 5 章　現代の問題の根を求めて哲学の問いへ」「私の哲学思想への手引き」）2003.3，pp.68-84，pp.143-147
6. 統合学研究所編『複雑系、諸学の統合を求めて』晃洋書房，統合学研究叢書第 2 巻（分担執筆：「フッサールと自己組織性」）2005.4，pp.277-291
7. *Symposium zur Gründung einer Deutsch-Japanischen Akademie für integrative Wissenschaft*, hrsg. von Daiseion-ji e.V. und der Wilhelm Gottfried Leibniz Gemeinschaft e.V., J. H. Röll Verlag（分担執筆：“Phänomenologie und das sich organisierende System”）2005.10, pp.108-118
8. 統合学研究所編『「統合学」へのすすめ』，晃洋書房，統合学研究叢書第 3 巻（分担執筆：「脳科学と現象学」）2007.1，pp.348-367
9. 木村敏・坂部恵監修『〈かたり〉と〈作り〉　臨床哲学の諸相』，河合文化教育研究所（分担執筆「ナラティヴとパースペクティヴ―「〈かたり〉の虚と実」をめぐって―」）2009.1，pp.95-119
10. *Alfred Schutz and his intellectual partners*, ed. by Hisashi Nasu, Lester Embree, George Psathas, Ilja Srubar. UVK Verlagsgesellschaft（分担執筆：“Schutz and Edmund Husserl ― For Phenomenology of Intersubjectivity ― ”）2009, pp.49-67
11. 松田純・江口昌克・正木祐史編『ケースブック　心理臨床の倫理と法』，知泉書館（分担執筆「ケース 9　終末期の心理臨床」）2009.3，pp.153-160
12. *Identity and Alterity ― Phenomenology and Cultural Traditions ―* , ed. by Kwok-Ying Lau, Chan-Fai Cheung, Tze-Wan Kwan. Orbis Phaenomenologicus, Königshausen & Neumann（分担箇所：“Identity and Alterity ― Schutz and Husserl on Phenomenology of Intersubjectivity ― ”）2010.12, pp.99-112
13. *Soziale Erfahrung, Phänomenologische Forschungen, Im Auftrage der Deutschen Gesellschaft für phänomenologische Forschung*, hrsg. von Dieter Lohmar und Dirk Fonfara（分担執筆：“Caring und Phänomenologie - aus der Sicht von Husserls Phänomenologie der Intersubjektivität”）2013, pp.113-127

14. *BORDER-CROSSING — Phenomenology, Interculturality and Interdisciplinary,* ed. by Kwok-ying Lau/Chung-Chi Yu, Orbis Phaenomenologicus, Königshausen & Neumann（分担執筆：“Towards a Phenomenological Approach to the Problem of Organ Transplantation after Brain Death”）2014, pp.147-157
15. 木村敏・野家啓一監修『臨床哲学とは何か　臨床哲学の諸相』，河合文化教育研究所（分担執筆「二つの「臨床哲学」が再会するとき」）2015.1，pp.262-279

【編著書】

1. 『いのちとこころに関わる現代の諸問題の現場に臨む臨床人間学の方法論的構築』，科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)研究成果報告書，2002.2，pp.1-201
2. PROCEEDINGS OF THE FIRST INTERNATIONAL MEETING FOR HUSSERL STUDIES IN JAPAN，第 1 回フッサール研究国際会議 in Japan『予稿集』，2002.11，pp.1-118
3. 『フッサール研究』創刊号／科学研究費補助金・基盤研究(B-1)研究成果報告書，2003.3, pp.1-306
4. 『ケアの人間学』No.1，合同研究会編，2004.3，pp.1-38
5. PROCEEDINGS OF THE FOURTH INTERNATIONAL MEETING FOR HUSSERL STUDIES IN JAPAN，第 4 回フッサール研究国際会議 in Japan『予稿集』，2004.11，1-159
6. 『フッサール研究』第 3 号／平成 16 年度科学研究費補助金・基盤研究(B-1)研究成果報告書, 2005.3，pp.1-250
7. 『ケアの人間学―合同研究会要旨集―』No.2，合同研究会編，2005.3，pp.1-28
8. 平成 16 年度「臨床と法」研究会研究報告書，静岡大学人文学部長裁量経費，2005.3，pp.1-105
9. 『〈ケアの人間学〉入門』，知泉書館，2005.11，pp.1-230
10. 『対人援助の倫理と法／「臨床と法」研究会活動報告』第 1 号，科学研究費補助金・基盤研究(B)研究成果報告書，2006.2，pp.1-82
11. 『対人援助の倫理と法／「臨床と法」研究会活動報告』第 2 号，科学研究費補助金・基盤研究(B)研究成果報告書，2007.2，pp.1-72
12. 『対人援助の倫理と法／「臨床と法」研究会活動報告』第 3 号，科学研究費補助金・基盤研究(B)研究成果報告書，2008.3，pp.1-178
13. 『ケアの臨床哲学―シンポジウムの記録―』，2012.3，pp.1-274
14. シリーズ『生命倫理学』第 14 巻「看護倫理」，浜渦辰二・宮脇美保子責任編集，2012.7, pp.1-259
15. 『看護研究』，Vol.45-05：特集「北欧ケアとは何か　看護研究への示唆」，医学書院，2012.8, pp.428-474
16. 『いま、北欧ケアを考える』，平成 22−24 年度科学研究費補助金基盤研究(B)〔海外学術調査〕「北欧ケアの実地調査に基づく理論的基礎と哲学的背景の研究」研究成果報告書，2013.3, pp.1-237
17. 『北欧ケアの思想的基盤を掘り起こす』，大阪大学出版会，2018.2，pp.1-296

【編　書】

1. 『ディアロゴス―哲学・倫理学研究会研究報告―』創刊号，九州大学哲学・倫理学研究会編集委員会，1988.3，pp.1-52
2. 『静岡大学フォーラム』創刊号，静岡大学広報委員会発行，2000.3，pp.1-52
3. 『静岡大学フォーラム』第 2 号，静岡大学広報委員会発行，2000.9，pp.1-36
4. 『静岡大学フォーラム』第 3 号，静岡大学広報委員会発行，2001.6，pp.1-38
5. PROCEEDINGS OF THE SECOND INTERNATIONAL MEETING FOR HUSSERL STUDIES IN JAPAN，第 2 回フッサール研究国際会議 in Japan『予稿集』，2003.3，pp.1-113
6. PROCEEDINGS OF THE THIRD INTERNATIONAL MEETING FOR HUSSERL STUDIES IN

JAPAN，第 3 回フッサール研究国際会議 in Japan『予稿集』，2003.11，pp.1-144
7. 『フッサール研究』第 2 号／平成 15 年度科学研究費補助金・基盤研究(B-1)研究成果報告書，2004.3，pp.1-208
8. 『ケアの人間学―合同研究会要旨集―』No.3，合同研究会編，2006.2，pp.1-20
9. 『ケアの人間学―合同研究会要旨集―』No.4，合同研究会編，2007.3，pp.1-32
10. 『ケアの人間学―合同研究会要旨集―』No.5，合同研究会編，2008.3，pp.1-36
11. 『ケアの人間学―合同研究会要旨集―』No.6，合同研究会編，2009.3，pp.1-34

Ⅱ．論　文

【単著論文：日本語】

1. 「フッセルにおける「心身」問題」，『哲学論文集』（九州大学哲学会）第 18 輯，1982.9，pp.47-67
2. 「他者経験の構造と発生―フッサール『デカルト的省察』を読み直す―」，『哲学論文集』（九州大学哲学会）第 23 輯，1987.9，pp.23-42
3. 「経験と言語への一考察―フッサール現象学からの／へのアプローチ―」，『ディアロゴス』（九州大学哲学倫理学研究会）創刊号，1988.3，pp.3-18
4. 「時間と他者のアナロジー―地平と間主観性の現象学・序説―」，『哲學』（日本哲学会）第 38 号，1988.5，pp.178-188
5. 「言語と他者についての一考察―間主観性の現象学における構造と発生―」，『ディアロゴス』（九州大学哲学倫理学研究会）第 2 号，1989.4，pp.47-60
6. 「他者と異文化―フッサール間主観性の現象学の一側面―」，『哲学年報』（九州大学文学部紀要）第 49 輯，1990.3，pp.289-314
7. 「相対性の復権と相対主義の陥穽」，『現象学年報』（日本現象学会編）第 6 号，1990.10，pp.35-50
8. 「他者と言語」，『哲学年報』（九州大学文学部紀要）第 50 輯，1991.3，pp.111-140
9. 「フッサールにおける生世界」，『文化と哲学』（静岡大学哲学会）第 9 号，1991.11，pp.55-74
10. 「文化の現象学のために」，『人文論集』（静岡大学人文学部）第 43 号の 2，1993.1，pp.111-151
11. 「空間の現象学にむけて」，『人文論集』（静岡大学人文学部）第 44 号の 2，1994.1，pp.71-108
12. 「幾何学的空間と生きられる空間」，『人文論集』（静岡大学人文学部）第 45 号の 1，1994.7，pp.97-129
13. 「「超越論的他者」とは何だったのか？」，『現象学年報』（日本現象学会）第 10 号，1995.1，pp.149-163
14. 「フッサール・データベースについて」，『人文論集』（静岡大学人文学部）第 46 号の 1，1995.7，pp.1-49
15. 「インターネットを利用した哲学研究のために―フッサール・データベースの新段階―」，『人文論集』（静岡大学人文学部）第 47 号の 1，1996.7，pp.1-24
16. 「時間・他者・身体―フッサールの反デカルト的省察―」，『中部哲学会紀要』（中部哲学会）第 29 号，1997.3，pp.13-27
17. 「峠を越えたフッサール・データベース―インターネット時代のマルチリンガル・テキストのために―」，『人文論集』（静岡大学人文学部）第 48 号の 1，1997.7，pp.1-29
18. 「見えないものの現象学のために」，『西日本哲学年報』（西日本哲学会）第 5 号，1997.10，pp.83-94
19. 「人文科学とデータベース」，『広領域分野における学術・教育資料の情報体系分析と情報資源化に関する基礎的研究』静岡大学学内特定研究成果報告書，1998.3，pp.35-51
20. 「時事的関心から現象学的関心へ―進化するフッサール・データベース―」，『人文論集』（静岡大学人文学部）第 49 号の 1，1998.7，pp.1-26

21. 「環境ホルモンとキレる子供たち（上）」,『アクアネット』Vol.2, No.2，1999.2.1，pp.78-80
22. 「環境ホルモンとキレる子供たち（下）」,『アクアネット』Vol.2, No.3，1999.3.1，pp.78-80
23. 「生物主体環境から環境ホルモンを考える」,『アクアネット』Vol.2, No.10，1999.10.1，pp.82-84
24. 「脱・人間中心主義のゆくえ」,『アクアネット』Vol.2, No.11，1999.11.1，pp.82-84
25. 「対話の現象学のために：フッサールとハイデガー」,『人間存在論』（京都大学大学院人間・環境学研究科，綜合人間学部『人間存在論』刊行会）第 6 号，2000.3，pp.37-47
26. 「対話の現象学にむけて―現象学の可能性をめぐって―」,『哲学論文集』（九州大学哲学会）第 36 輯，2000.9，pp.97-114
27. 「報告：臨床人間学の試み」,『文化と哲学』（静岡大学哲学会）第 18 号，2001.7，pp.31-38
28. 「精神医学と現象学の対話のために―フッサールとハイデガーをてがかりに―」,『いのちとこころに関わる現代の諸問題の現場に臨む臨床人間学の方法論的構築』（平成 12・13 年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)研究成果報告書），2002.2，pp.41-51
29. 「対話の現象学への一つのアプローチ―「父性の不在」論をめぐって―」,『いのちとこころに関わる現代の諸問題の現場に臨む臨床人間学の方法論的構築』（平成 12・13 年度科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)研究成果報告書），2002.2，pp.79-91
30. 「末期がん患者の精神医療のあり方をめぐって―ケアの人間学へむけて―」,『いのちとこころに関わる現代の諸問題の現場に臨む臨床人間学の方法論的構築』（科学研究費補助金・基盤研究(C)(2)研究成果報告書），2002.2，pp.117-136
31. 「フッサールにおける論理と世界―様相論理と可能世界意味論に寄せて―」,『中部哲学会紀要』（中部哲学会）第 34 号，2002.3，pp.153-169
32. 「フッサールにおける自然と精神―『イデーンⅡ』から『自然と精神』へ―」,『人文論集』（静岡大学人文学部）第 53 号の 1，2002.7，pp.1-18
33. 「フッサールにおける現象学と存在論」,『立命館哲学』第 15 集，2004.3，pp.1-18
34. 「研究活動報告：「ケアの人間学」と「生命ケアの比較文化論」」,『文化と哲学』（静岡大学哲学会）第 22 号，2005.11，pp.1-10
35. 「フッサール哲学から見た間主観性の発達」,『乳幼児医学・心理学研究』（日本乳幼児医学・心理学会），2005.12，pp.1-7
36. 「魂のケアについて―仏独・ホスピスとスピリチュアル・ケア研修報告―」,『人文論集』（静岡大学人文学部）第 56 号の 2，2006.1，pp.1-23
37. 「ケアの人間学―高齢者ケアのために―」,『生命ケアの比較文化論的研究とその成果に基づく情報の集積と発信』科学研究費補助金(基盤研究 B)研究成果報告書（代表：松田純），2006.3，pp.290-297
38. 「高齢者ケアのために」,『人文論集』（静岡大学人文学部）第 57 号の 1，2006.7，pp.1-14
39. 「報告：看板を「哲学」から「人間学」に替えた一つの試み」,『中部哲学会年報』（中部哲学会）第 37 号，2006.9，pp.1-11
40. 「生と死をケアすること―ケアの現象学的人間学から―」,『哲學』（日本哲学会）No.58，2007.4，pp.79-96
41. 「緩和ケアと尊厳―ケアの現象学的人間学からのアプローチ―」,『緩和ケア』（青海社）2007 年 9 月特集号，2007.9，pp.395-398
42. 「死生観を育てよう―「ケアの人間学」合同研究会―」,『臨牀看護』（へるす出版）11 月号（Vol.33, No.13），2007.11，pp.2011-2015
43. 「高齢者ケアの倫理と法をめぐって―北欧の高齢者ケア視察研修報告―」,『対人援助の倫理と法―「臨床と法」研究会活動報告―』（科学研究費報告書）第 3 号，2008.3，pp.97-106
44. 「緩和ケアと尊厳」，ホスピスケア研究会編集発行『ホスピスケア 38』（特集「よりよい終末期の看護をめざして」），2008.10.31，pp.1-14
45. 「フッサールとシュッツ―対話としての臨床哲学のために―」,『メタフュシカ』（大阪大学大学院文学研究科哲学講座）第 39 号，2008.12，pp.13-23

46. 「スピリチュアルケアと臨床哲学」,『緩和ケア』(青海社), 2009.1, pp.31-33
47. 「私の考える臨床哲学―私はどこから来て、どこへ行くのか―」,『臨床哲学』第 10 号, 2009.3, pp.3-20
48. 「ビジネス・倫理・ケア」,『西日本哲学年報』(西日本哲学会)第 17 号, 2009.10, pp.93-110
49. 「日本における高齢者ケアを考える」,『ボローニャプロセス以後の欧米を中心として大学制度の変貌と新しい学問状況』(南山大学地域研究センター共同研究報告), 2010.3, pp.11-17
50. 「脳死臓器移植問題への現象学的アプローチにむけて」, 大阪大学文学会編『待兼山論叢』第 45 号, 2010.12, pp.1-17
51. 「二つの「臨床哲学」」,『臨床精神病理』(日本精神病理・精神療法学会), 2010.12, pp.143-146
52. 「人間の成熟をめぐって―成熟の間主観性という次元―」,『哲学と現代』(名古屋哲学研究会)第 26 号, 2011.2, pp.6-19
53. 「生老病死について」,『最期の居場所―暮らしの中のホスピス』(NPO 法人愛逢), 2011.7, pp.6-25
54. 「ビジネスとケアをつなぐ倫理」,『異文化コミュニケーション 23』(神田外語大学異文化コミュニケーション研究所), 2011.10, pp.123-132
55. 「ケアの現象学への途上で―故・渡邉美千代を偲んで―」,『メタフュシカ』(大阪大学大学院文学研究科哲学講座)第 42 号・鷲田清一名誉教授退職記念号, 2011.11, pp.9-22
56. 「直観とそれを隠れて支えているもの―「直観と倫理」へのフッサール現象学からのアプローチ―」,『倫理学研究』(関西倫理学会)第 42 号, 2012.6, pp.13-24
57. 「ケアの倫理と看護」,『看護倫理』(丸善出版, シリーズ『生命倫理学』第 14 巻第 10 章), 2012.7, pp.195-217
58. 「応用現象学とケア論―北欧現象学との交流のなかから―」,『文化と哲学』(静岡大学哲学会)第 29 号, 2012.7, pp.1-14
59. 「北欧ケア研究のために」,『看護研究』(医学書院) Vol.45-05:特集「北欧ケアとは何か 看護研究への示唆」, 2012.8, pp.426-438
60. 「和辻哲郎の「人間学としての倫理学」」,『臨床哲学』Vol.14-1, 2012.9, pp.2-15
61. 「北欧ケアと日本のケア―哲学の立場からの比較―」,『地域リハビリテーション』(三輪書店)第 7 巻第 12 号, 2012.12, pp.1042-1045
62. 「現代日本における死をめぐる状況」,『Humanitas』(玉川大学人文学研究センター)第 4 号, 2013.3, pp.162-173
63. 「ケアの現象学にむけて―現象学の可能性をめぐって(二)―」,『哲学論文集』(九州大学哲学会)第 49 輯, 2013.9, pp.109-126
64. 「ケアを支えるシステムについての一考察」,『文化と哲学』(静岡大学哲学会)第 30 号, 2013.9, pp.39-56
65. 「尊厳死を法制化するとは、何をすることなのか?―日本とヨーロッパ 3 国の比較考察―」,『メタフュシカ』(大阪大学大学院文学研究科哲学講座)第 45 号・中岡成文退職記念号, 2014.12, pp.1-14
66. 「生老病死と共に生きる―ケアの臨床哲学にむけて―」,『哲學』(日本哲学会) No.66, 2015.4, pp.45-61
67. 「ドイツにおける事前指示書の法制化の内実―自律と依存を両立させる試み―」,『文化と哲学』(静岡大学哲学会)第 32 号, 2015.8, pp.1-17
68. 「グリーフケアのために―臨床哲学からのアプローチ―」,『グリーフケア』(上智大学グリーフケア研究所)第 4 号, 2016.3, pp.3-18
69. 「ケアの臨床哲学~生老病死の現場から~」, 椙山人間学研究センター年誌『椙山人間学研究』2016 年度 vol.12, 2017.3.23, pp.23-33
70. 「フッサールにおける「できる/できない」の現象学」, 哲学論叢刊行会『哲学論叢』第 44 号, 2017.12.31, pp.16-27

71. 「北欧ケアの思想的基盤を掘り起こす：活動報告」，池田喬・合田正人・志野好伸共編『異境の現象学―〈現象学の異境的展開〉の軌跡』2015-2017，2018.3.1，pp.3-18

【単著論文：英語】

1. “Nature and Spirit ― from Ideas II to Nature and Spirit ―”，『人文論集』（静岡大学人文学部）第 53 号の 2，2003.1，pp.1-12
2. “From Ideas II to Nature and Spirit”, ORGANIZATION OF PHENOMENOLOGICAL ORGANIZATIONS: Website, 2003.2.
3. “Caring from the Phenomenological Point of View ― Decision-making in terminal care in Japan ―”，人文論集（静岡大学人文学部）第 58 号の 2，2008.1，pp.1-15
4. “Caring from the Phenomenological Point of View ― Decision-making in terminal care in Japan ―”，『「いのち・からだ・こころ」をめぐる現代的問題への応用現象学からの貢献の試み』科学研究費補助金（基盤研究 B）研究成果報告書（代表：榊原哲也），2009.3，pp.122-133
5. “To a Phenomenological Approach of the Problem of Organ Transplant after Brain Death”，『臨床哲学』Vol.12，2011.3，pp.20-30
6. “Towards Studies of Nordic Caring ― A Different Phenomenological Approach”，『臨床哲学』Vol.14-2，2013.3，pp.2-20
7. “Intersubjectivity of Ageing ― Reading Beauvoir’s The Coming of Age ―”，『臨床哲学』Vol.17，2016.3，pp.24-36
8. “Intersubjectivity of Person-centred Care: a phenomenological perspective”，『定常型社会におけるケアとそのシステム』科学研究費（基盤研究 C）研究成果報告書（代表：紀平知樹），2016.3，pp.71-82
9. “Dialogue in Husserl’s phenomenology and psychiatry”，『定常型社会におけるケアとそのシステム』科学研究費（基盤研究 C）研究成果報告書（代表：紀平知樹），2016.3，pp.61-70
10. “To Live Together With Others ― from Husserl’s Phenomenology of Intersubjectivity ―”，『臨床哲学』Vol.18，2016.12，pp.191-205
11. “On Dis/Ability in Husserl’s Phenomenology”，『臨床哲学』Vol.19，2018.3，pp.79-94

【単著論文：ドイツ語】

1. “Die transzendentale Idealitaet von Raum und Zeit bei Kant”，『ディアロゴス』（九州大学哲学倫理学研究会）第 4 号，1991.6，pp.65-82
2. “Zur Phänomenologie des Unsichtbaren: Husserl und Heidegger”，『人文論集』（静岡大学人文学部）第 52 号の 1，2001.7，pp.1-15
3. “Zur Phänomenologie des Dialogs: Husserl und Heidegger”，『人文論集』（静岡大学人文学部）第 52 号の 2，2002.1，pp.1-16
4. “Schütz und Husserl ― Zur Phänomenologie der Intersubjektivität ―”, *FOCUS PRAGENSIS, Yearbook for the Philosophy and Phenomenology of Religion,* 2004, pp.115-137
5. “Schütz und Husserl ― Zur Phänomenologie der Intersubjektivität ―”，『人文論集』（静岡大学人文学部）第 55 号の 2，2005.1，pp.1-24
6. “Zu einer Phänomenologie des Dialogs: Husserl und Heidegger”, *Interdisziplinäre Phänomenologie,* Vol.2, 2005.4, pp.149-161
7. “Fürsorge im Leben und Sterben ― Aus phänomenologisch-anthropologischer Sicht ―”,『人文論集』（静岡大学人文学部）第 58 号の 1，2007.7，pp.1-18

【共著論文・日本語】

1. 「心理臨床家の教育における倫理学的、法学的課題―大学院教育および生涯教育に関する検討―」，『人文論集』（静岡大学人文学部）第 56 号の 1，2005.7，pp.1-22
2. 永浜明子・永山亜樹・浜渦辰二「広汎性発達障がいのある学生の大学生活における困りに

関する当事者研究」,『日本教育保健学会年報』第 23 号，2016，pp.15-24
3. 永浜明子・永山亜樹・浜渦辰二「広汎性発達障がいのある青年の日常生活における「困り」に関する当事者研究―具体的現象と対処・対応―」,『日本教育保健学会年報』第 24 号，2017，pp.1-14
4. 永浜明子・永山亜樹・浜渦辰二「関係の変化に伴う「支援」から「共歩」への移行―自閉症スペクトラムの青年との歩みから―」,『対人援助研究』第 6 号，2017，pp.24-47

Ⅲ．翻　訳

【単訳書】

1. クラウス・ヘルト『20 世紀の扉を開いた哲学―フッサール現象学入門―』，九州大学出版会，2000.4，pp.1-142+I-XL
2. エトムント・フッサール『デカルト的省察』，岩波書店（岩波文庫），2001.2，pp.1-375+1-15

【監訳書・共訳書】

1. シドニー・シューメーカー（菅豊彦との共訳）『自己知と自己同一性』，勁草書房，1989.9，pp.1-306
2. エトムント・フッサール（山口一郎との共監訳）『間主観性の現象学　その方法』，ちくま学芸文庫，2012.5，pp.1-552+i-vi
3. エトムント・フッサール（山口一郎との共監訳）『間主観性の現象学Ⅱ　その展開』，ちくま学芸文庫，2013.9，pp.1-599+i-vii
4. エトムント・フッサール（山口一郎との共監訳）『間主観性の現象学Ⅲ　その行方』，ちくま学芸文庫，2015.10，pp.1-599+i-vii

【単訳論文】

1. ヘルムート・フェッター「初期ハイデガーにおける「世界」概念」,『文化と哲学』（静岡大学哲学会）第 15 号，1998.3，pp.51-77
2. クラウス・ヘルト「現象学入門（上）―現象学的方法―」,『人文論集』（静岡大学人文学部）第 50 号の 1，1999.7，pp.1-46
3. クラウス・ヘルト「現象学入門（下）―生活世界の現象学―」,『人文論集』（静岡大学人文学部）第 50 号の 2，2000.1，pp.53-101，279-303
4. ディーター・ローマー「フッサールのベルナウ草稿につながる予持の分析　予持は何を“予持”するのか？」，PROCEEDINGS OF THE THIRD INTERNATIONAL MEETING FOR HUSSERL STUDIES IN JAPAN，2003.11，pp.129-144
5. ラズロ・テンゲイ「生活世界における経験」,『臨床哲学』第 11 号，2010.6，pp.151-164

【共訳論文】

1. ディーター・ローマー（川崎唯史との共訳）「非言語的な思考とコミュニケーション―AAC への応用という側面とともに―」,『臨床哲学』Vol.13，2012.3，pp.62-90
2. カーリン・ダールベリ（川崎唯史との共訳）「患者に焦点を当てることは生活世界に焦点を当てることである―ケア学というパースペクティヴ―」,『看護研究』医学書院，Vol.45-5：特集「北欧ケアとは何か　看護研究への示唆」，2012.8，pp.439-449
3. リサ・フォークマーソン・シェル（高山佳子との共訳）「位置づけられた身体をもつことと家（ホーム）がもつ意味―フェミニスト現象学の視点から―」,『臨床哲学』Vol.15-2，2014.3，pp.74-100
4. ディーター・ローマー（山口弘多郎との共訳）「数学における非言語的思考」,『臨床哲学』Vol.15-2，2014.3，pp.101-117
5. リサ・フォークマーソン・シェル（青木健太との共訳）「単なる喪失ではない：加齢に伴う認知症における自己のあり方」,『臨床哲学』Vol.16，2015.3，pp.82-109

6. サラ・ヘイナマー（高原耕平との共訳）「老いの変容：自己性、標準性、時間」,『臨床哲学』Vol.17，2016.3，pp.77-100
7. インガ・レーマー（高山佳子との共訳）「「最大限の価値に到達するマシーン」から道理にかなう愛ある人間へ―フッサールの倫理学における主観性―」,『臨床哲学』Vol.18，2016.12，pp.175-190
8. リサ・フォークマーソン・シェル（青木健太との共訳）「間身体的表現と認知症の主観性」,『臨床哲学』Vol.19，2018.3，pp.173-205

Ⅳ．口頭発表

【学会・研究会口頭発表：日本語】

1. 「フッセル『第一哲学』における現象学的還元」，第 29 回西日本哲学会，1978.11.18，鹿児島大学
2. 「フッセル『イデーン第二巻』における「人格」論について」，第 33 回西日本哲学会，1983.12.26，福岡教育大学
3. 「異他なるパースペクティヴを経験する―フッサール相互主観性の現象学における他者経験をめぐって―」，第 37 回西日本哲学会，1986.11.21，西南学院大学
4. 「他者経験の構造と発生：フッサール相互主観性の現象学をめぐって」，日本現象学会第 9 回研究会，1987.5.25，國學院大学
5. 「我と他者は痛みの心を共通にもっているか―谷口龍男氏への質問―」，第 53 回日本哲学会，1994.5，三重大学
6. 「見えないものの現象学のために」，第 83 回現代哲学研究会シンポジウム「現象学の新しい可能性」，1996.3.24，京都大学京都会館
7. 「フッサール・データベースの新段階―データの追加とホームページの開設―」，第 4 回情報知識学会研究報告会，1996.5.25，凸版印刷本社
8. 「身体・他者・時間―フッサールの反デカルト的省察―」，中部哲学会 1996 年大会シンポジウム「デカルトの現在―自然学と形而上学をめぐって―」，1996.10.5，愛知大学三好キャンパス
9. 「大学の教育と研究の現場でぶつかる情報倫理の問題」，日本学術振興会未来開拓学術研究推進事業「情報倫理の構築」プロジェクト―広島，1999.8.17，広島大学
10. 「報告：末期がん患者の精神医療のあり方をめぐって―ケアの人間学へむけて―」，科研費共同研究「いのちとこころに関わる現代の諸問題の現場に臨む臨床人間学の方法論的構築」研究会，2001.9.1，静岡大学
11. 「ロゴスとディアロゴス：フッサール現象学における論理と世界」，中部哲学会シンポジウム「論理と世界」，2001.10.7，信州大学
12. 「自然と精神―『イデーンⅡ』から『自然と精神』へ―」,「フッサール研究会」創立記念・第 1 回研究会，2002.3.16，八王子大学セミナーハウス
13. 「フッサールにおける自然と精神―精神医学の現在―」，臨床と哲学の研究会，2002.12.20，名古屋大学医学部精神医学教室
14. 「フッサールと自己組織性システム」,「複雑系と現代存在論」第 3 回研究会，2003.10.18，静岡大学人文学部
15. 「フッサールにおける現象学と存在論」，立命館大学哲学会シンポジウム「現象学以後の／による現象学―21 世紀の扉を開くために―」，2003.10.25，立命館大学アカデメイア立命
16. 「ターミナル・ケアと安楽死のあいだで―その倫理的、法的側面―」，第 3 回「臨床と法」研究会，2005.1.27，静岡大学人文学部
17. 「脳科学と現象学」,「複雑系と現代存在論」第 4 回研究会，2005.5.14，榊原邸
18. 「統合学に現象学は貢献できるか」，統合学術国際研究所 2005 年度第 5 回研究会，2006.3.11，妙見閣寺
19. 「終末期医療と安楽死―ケアの人間学からのアプローチ―」，唯物論研究協会第 29 回研究大

会，2006.10.22，静岡大学教育学部
20. 「語りとパースペクティヴ」，第 6 回河合臨床哲学シンポジウム，2006.12.9，東京国立博物館・平成館大講堂
21. 「生・死とケアの哲学」，日本哲学会第 66 回大会：共同討議Ⅱ，2007.5.19，千葉大学
22. 「脳科学と現象学」，第 2 回精神文化研究会，2007.7.7，南山大学宗教文化研究所
23. 「緩和ケアと尊厳―ケアの現象学的人間学からのアプローチ―」，第 2 回中部生命倫理研究会，2007.7.14，名古屋大学文学部
24. 「フッサール現象学から見た「人間と環境」」，第 2 回学際現象学研究会，2007.12.8，京都大学大学院人間・環境学研究科
25. 「ビジネス・倫理・ケア」，西日本哲学会シンポジウム「応用倫理学の現在」，2008.12.7，琉球大学
26. 「ケアの現象学への途上で」，「ケアの臨床哲学」研究会，2009.8.22，大阪大学
27. 「日本における高齢者ケアを考える」，南山大学地域研究センター共同研究「介護およびケア概念の日独比較」，2009.9.19，南山大学社会倫理研究所
28. 「ケアの現象学のために―ナラティヴとパースペクティヴ―」，日本現象学・社会科学会第 26 回大会，2009.12.5，神田外語大学
29. 「ケアの現象学のために―北欧ケア研究への序―」，科研「現象学的看護研究の方法論の確立のために」研究会，2010.1.10，大阪大学 OSIPP 千里エクステンション
30. 「ビジネスとケアをつなぐ倫理」，国際シンポジウム「ビジネス・エシックスを多角的に考える」，2010.2.12，神田外語大学・異文化コミュニケーション研究所
31. 「人間の成熟をめぐって―成熟の間主観性という次元―」，名古屋哲学研究会，2010.6.27，名古屋市立大学
32. 「終末期を考える―尊厳死―」，第 40 回「ケアの人間学」合同研究会，2011.1.22，静岡市産学交流センター
33. 「ケア学ヨーロッパアカデミーとボラース大学」，科研「北欧ケアの実地調査に基づく理論的基礎と哲学的背景の研究」第 3 回研究会，2011.1.23，神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
34. 「ケアとシステム」，日本倫理学会，2011.9.30，富山大学
35. 「直観とそれを隠れて支えているもの―「直観と倫理」へのフッサール現象学からのアプローチ―」，関西倫理学会シンポジウム「直観と倫理」，2011.10.30，関西大学
36. 「応用現象学とケア論―北欧現象学との交流のなかから―」，静岡大学哲学会，2011.11.3，静岡大学
37. 「北欧ケアの人間学」，第 44 回「ケアの人間学」合同研究会，2012.6.16，静岡看護専門学校
38. 「ケアの現象学にむけて―現象学の可能性をめぐって(2)―」，九州大学哲学会平成 24 年度大会，2012.9.29，九州大学
39. 「ケアを支えるシステム」，科研「定常型社会におけるケアとそのシステム」研究会，2012.10.6，兵庫医療大学
40. 「事前指示書をめぐるドイツの現状」，科研「定常型社会におけるケアとそのシステム」研究会，2013.3.6，兵庫医療大学
41. 「ケアの現象学と人称性」，科研プロジェクト「ケアの現象学の具体的展開と組織化」第 4 回「ケアの現象学」研究会，2013.6.29，大阪大学
42. 「北欧における看取りをめぐる状況―とその周辺の欧州視察報告 2―」，「欧州看取り科研」第 6 回研究会，2014.3.21，上智大学
43. 「尊厳死を法制化するとは？―ヨーロッパでは―」，科研研究会「定常型社会におけるケアとそのシステム」，2014.6.8，兵庫医療大学
44. 「北欧の在宅・地域ケアに関心を寄せることの意義」，科研「北欧の在宅・地域ケアに繋がる生活世界アプローチの思想的基盤の解明」第 6 回研究会，2014.9.28，名古屋芸術大学
45. 「ドイツにおける事前指示書の法制化の内実―自律と依存を両立させる試み―」，静岡大学

哲学会第 37 回大会シンポジウム「欧州における看取りと自己決定」，2014.11.3，静岡大学
46. 「生老病死と共に生きる―ケアの臨床哲学にむけて―」，日本哲学会第 74 回大会シンポジウム「ケア―共に生きる―」，2015.5.16，上智大学
47. 「フッサール現象学と精神医学における対話」，阪大・臨床哲学研究室＆東大・UTCP 上廣共生哲学寄付研究部門合同ワークショップ「障害の哲学：理論とその応用」，2015.10.22，大阪大学
48. 「北欧ケアの思想的基盤を掘り起こす」，明治大学人文科学研究所総合研究「現象学の異境的展開」主催「ケア・ジェンダー・いのち：北欧における現象学の展開」，2017.1.8，明治大学
49. 「死に行く患者のための家族によるケア―尊厳死を法制化すべきなのか？―」，NCCU-OU Workshop on Clinical Philosophy，2017.9.15，台北・政治大学（台湾）
50. 「大阪大学での 10 年間」，関西哲学会第 70 回大会ワークショップ「これまでの哲学教育、これからの哲学教育」，2017.10.22，大阪体育大学

【学会・研究会口頭発表：英語・ドイツ語】

1. “Ein japanisches Projekt: Husserl in Database”, Die Tagung “Übersetzung von Husserl und Heidegger ins Russische”, 1995.9.28, in der Katholischen Akademie der Erzdiözese Freiburg, Freiburg（Germany）
2. “Relativism and Communication ― from a Husserlian point of view ― ”, The 5th Japanese/American Phenomenology Conference, “The Possibility of Cross-Cultural Communication”, 1996.9.21, Tohoku University, Sendai（Japan）
3. “Zur Phäomenologie des Unsichtbaren: Husserl und Heidegger”, The International Conference on Translation Conceptions of the German Classical Philosophy of the XXth Century: Husserl and Heidegger, 1998.6.8, Russian State University for the Humanities in Moscow（Russia）
4. “Zur Phänomenologie des Dialogs: Husserl und Heidegger”, Phänomenologisches Kolloquium von alten Wuppertalern: KLAUS HELD UND NEUES LICHT IN DER SOZIALPHÄENOMENOLOGIE ― Zur Laudatio Klaus Held anlässlich seines 65. Geburtstag, 2001.5.5, Kyoto University, Kyoto（Japan）
5. “Nature and Spirit ― from *Ideas II to Nature and Spirit* ― ”, Issues Confronting the Post-European World / A conference dedicated to Jan Patocka（1907-1977）on the occasion of the founding of the Organization of Phenomenological Organizations（OPO）, 2002.11.8, Prague（Czech）
6. “The Aim of Our Project and a Sample Case of New Materials ‘Nature and Spirit’ ”, THE FIRST INTERNATIONAL MEETING FOR HUSSERL STUDIES IN JAPAN, 2002.11.23, Shizuoka University, Shizuoka（Japan）
7. “Schütz und Edmund Husserl ― Zur Phänomenologie der Intersubjektivität ―”, International Conference “ALFRED SCHUTZ AND HIS INTELLECTUAL PARTNERS”, 2004.4.3, Waseda University International Conference Center, Tokyo（Japan）
8. “Identity and alterity: Schutz and Husserl on phenomenology of intersubjectivity”, The 1st International Conference of PEACE（Phenomenology for East Asian CirclE）, 2004.5.24, The Chinese University of Hong Kong（China）
9. “Phänomenologie und das sich organisierende System”, das vorbereitende Symposium für Begründung der Gesellschaft von der Integrativen Wissenschaft, 2004.10.14, Hotel “König” in Bonn（Germany）
10. “Caring for life and death ― From a phenomenological anthropology of caring ― ”, The Korean Society of Phenomenology, 2007.3.24, Sungkyunkwan University, Seoul（South Korea）
11. “Phenomenology and Analytical Philosophy in Japan ― A Historical Study ― ”, 2007.3.27, Seoul University, Seoul（South Korea）
12. “To the phenomenological anthropology of caring ― On decision at the terminal care in Japan ― ”,

The 2nd Conference of Applied Phenomenology, 2007.9.21, Ritsumeikan University, Kyoto（Japan）

13. “Narrative and Perspective”, The 7th Symposium Husserl 150, 2009.4.25, Tampere University, Tampere（Finland）
14. “Narrative and Perspective”, The 3rd International Conference of PEACE（Phenomenology for East Asian CirclE）, 2009.9.21, Seoul National University, Seoul（South Korea）
15. “Watsujis ‘Ethik’ als Anthropologie. Zur Rezeption deutscher Philosophie in Japan”, 2012.7.17, Philosophisches Institut von Heidelberg Universität, Heidelberg（Germany）
16. “Watsujis Übersetzung der deutschen philosophischen Vokabeln”, 2012.7.19, Japanisches Institut von Heidelberg Universität, Heidelberg（Germany）
17. “To a Phenomenological Investigation on the Problem of Organtransplantation after Brain Death”, The Fourth International Conference of PEACE（Phenomenology for East Asian CirclE）, 2010.12.9-13, National Sun Yat-Sen University, Kaohsiung（Taiwan）
18. “Caring und Phänomenologie ― Aus der Sicht von Husserls Phänomenologie der Intersubjektivität ― ”, Internationale Tagung des Husserl-Arichivs Köln im Zusammenarbeit mit der Deutschen Gesellschaft für phänomenologische Forschung, 2013.9.28, Universität zu Köln, Köln（Germany）
19. “Caring and Phenomenology ― From Husserl’s Phenomenology of Intersubjectivity ― ”, Kairos and Topos: Phenomenology and the Cerebration of Thinking, The 6th International Conference of P.E.A.CE（Phenomenology for East-Asian CirclE）cum 8th SPA（Symposia Phenomenologica Asistica）, 2014.5.20, The Chinese University of Hong Kong, Hong Kong（China）
20. “From my experience of having lost two mothers ― On dying after living with dementia from a second-person perspective of Japanese philosophical researcher ― ”, Centre for Gender Research of Uppsala University, 2014.10.10, Uppsala（Sweden）
21. “A Comparative Inquiry into ‘Advance Decisions’ in Japan, Germany and the UK”, Medical Humanities Seminar Series Spring 2015, The Body: Health, Wellbeing and Vulnerability, 2015.2.18, University of Hull, Kingston upon Hull（UK）
22. “Dementia as a sickness of interpersonal relationship”, International conference in Norrköping “Life with Dementia: Relations”, 2014.10.15, Centre for Dementia Research, Linköping University, Norrköping（Sweden）
23. “Dialogue in Husserl’s phenomenology and psychiatry”, An interdisciplinary workshop “DIALOGUE AND INTERSUBJECTIVITY”, 2015.9.16, Helsinki University（Finland）
24. “Intersubjectivity of Ageing ― Reading Beauvoir’s The Coming of Age ― ”, Seminar for philosophy of Helsinki University, 2015.9.18, Helsinki University（Finland）
25. “Dialogue in Psychiatry and Person-centered Care”, At the Psychiatric Team for the Elderly, 2015.9.18, Boras（Sweden）
26. “Intersubjectivity of Person-centred Care: a phenomenological perspective”, At Centre for Person-Centred Care（GPCC）, 2015.9.22, University of Göteborg（Sweden）
27. “Introduction to Phenomenology of Vulnerability and Limits ― Finnish-Japanese Research Collaboration ― ”, International Symposium “Phenomenology of Vulnerability and Limits”, 2016.3.1-3, Osaka University（Japan）
28. “To live together with others ― from Husserl’s phenomenology of intersubjectivity”, 2016.9.20, Renmin University, Beijing（China）
29. “On Dis/Ability in Husserl’s Phenomenology”, The 7th International Conference of P.E.A.CE（Phenomenology for East-Asian CirclE）“Phenomenology of Dis/Ability”, 2016.12.16, Tokyo University, Komaba（Japan）
30. “On Dis/Ability in Husserl’s Phenomenology”, The 4th Meeting of Collaborative Research by JSPS, 2017.5.27, Nihon University, Tokyo（Japan）
31. “On Dis/Ability in Husserl’s Phenomenology”, Nordic Society for Phenomenology, Annual Conference, Phenomenology and the Body ― Contemporary Perspectives, 2017.6.17, Norwegian

University of Science and Technology（NTNU）, Trondheim（Norway）

32. “Phenomenology, clinical philosophy and medical ethics in end-of-life care”, “IIDS Seminar Series on “Phenomenology: An Interdisciplinary Dialogue”（Project Sponsored by RGC, Hong Kong）, 2017.10.25, Hong Kong Shue Yan University（China）
33. “Zwei Wege der klinischen Philosophie in Japan” Klinik für Allgemeine Psychiatrie, Sektion “Phänomenologische Psychopathologie und Psychotherapie”, Karl-Jaspers-Professur für Philosophie und Psychiatrie, 2017.12.5, Ruprecht-Karls-Universität Heidelberg（Germany）
34. “Die Begriffe ‚Verhältnis‘, ‚Amae‘ und ‚Aida‘ im Vergleich”, Institue für Japanologie, 2017.12.7, Ruprecht-Karls-Universität Heidelberg（Germany）
35. “Phenomenology, Clinical Philosophy and Ethics”, International Conference organized by the Korean Society for Phenomenology, 2017.12.22, Seoul National university（Korea）
36. “The Phenomenology of Ageing”, XXIV World Congress of Philsophy, Beijing 2018, 2018.8.14, Pekin University（China）

【講演・シンポジウム・公開講座】

1. 「他者と異文化について哲学してみよう」, 1993 年度人文学部公開講座「他者との出会い―排除と共生のあいだで―」, 1993.11.19, 静岡市中央公民館アイセル 21
2. 「対話の現象学への一つのアプローチ―「父性の不在」（森下香枝ルポ）を手がかりに―」, 臨床と哲学の研究会 6 月例会, 2000.6.28, 静岡大学人文学部
3. 「「父性の不在」論・続―対話の現象学への一ステップ―」, 臨床と哲学の研究会 3 月例会, 2001.3.21, 静岡大学教育学部
4. 「21 世紀、知は人間に収斂してくる」, 静岡県中小企業家同友会大学, 2001.4.28, JR 東海静岡社員センター
5. 「精神病理学は「失敗した学問」なのか？―渡辺哲夫『二十世紀精神病理学史序説』を読む―」, 臨床と哲学の研究会, 2002.4.17, 静岡大学人文学部
6. 「末期がん患者の精神医療をめぐって―ケアの人間学へむけて―」, 第 1 回「ケアの人間学」合同研究会, 2002.5.25, 静岡市立静岡看護専門学校
7. 「現代思想入門」, 静岡県高等学校社会科教育研究協議会公民部会, 2003.1.17, 磐田市福祉センター
8. 「内海健『「分裂病」の消滅―精神病理学を越えて―』（青土社, 2003 年）を読む」, 臨床と哲学の会, 2004.2.18, 名古屋大学医学部精神医学教室
9. 「ケアの人間学が目指すもの―三つの講演会を終えて―」, 第 11 回「ケアの人間学」合同研究会, 2004.7.31, 静岡市立静岡看護専門学校
10. 「現象学と精神病理学」, 名古屋大学医学部精神科精神病理学グループ合宿, 2004.8.29, 長野県野麦峠スキー場ヒュッテ
11. 「研究活動報告：「ケアの人間学」と「生命ケアの比較文化論」」, 静岡大学哲学会, 2004.11.3, 静岡大学人文学部
12. 「フッサール哲学からみた間主観性の発達」, 日本乳幼児医学・心理学会, 2004.11.6, あいち小児保健医療総合センター
13. 「「臨床と法」研究会の趣旨・前史・計画」, 第 1 回「臨床と法」研究会, 2004.11.18, 静岡大学人文学部
14. 「脳科学と現象学」, 名古屋大学医学部精神科精神病理学グループ 6 月ミーティング, 2005.6.24, 名古屋大学精神科医局
15. 「報告：看板を「哲学」から「人間学」に替えた一つの試み」, 中部哲学会シンポジウム「哲学教育をめぐって」, 2005.10.2, 静岡大学
16. 「仏独・ホスピスとスピリチュアル・ケア研修報告」,「臨床と法」研究会 10 月例会, 2005.10.20, 静岡大学法科大学院模擬法廷教室
17. 「ケアの人間学：仏独・ホスピスとスピリチュアル・ケア研修報告」, 第 117 回スピリチュ

アルケア研究会，2005.10.31，済生会総合病院
18. 「ケアの人間学―スピリチュアル・ケアを中心に―」，平成 17 年度静岡大学公開講座「いのちのケア」，2005.11.11，静岡市産学交流センター
19. 「ケアの人間学―高齢者ケアのために―」，ケアサポートみずき主催「一般講座」，2005.12.7，富士宮市総合福祉会館
20. 「ケアの人間学―スピリチュアルケアのために―」，地域ケアマネ支援ネット研修会，2006.1.25，総合介護サービスセンターしずおかエン・フレンテ
21. 「ケアの人間学―看護の専門職業人にむけて―」，平成 17 年度卒業生に対する特別講義，2006.3.2，東海アクシス看護専門学校
22. 「地域で育てる対人援助（心理臨床・ヒューマンケア）」，地域社会文化研究ネットワークセンター「静岡大学人文社会系学部は、地域と連携します」, 2006.4.20, 静岡市産学交流センター
23. おもしろ哲学シリーズ「フッサールとは誰か、現象学とは何か」全 12 回のうち 4 回（フッサールの生涯と著作①、フッサールの生涯と著作②、フッサールの他者論、現象学と精神医学）を担当，2006.4.6 ～ 9.21，NHK 名古屋文化センター
24. 「よりよいケアを求めて―看護の専門職業人にむけて―」，戴帽式記念講演，2006.5.10，富士市立看護専門学校
25. 「高齢者の看取りケア―ケアの人間学より―」，静岡県老人福祉施設協議会特養部会職員研修会，2006.8.30，静岡商工会議所会館
26. 「「いのちのケア」をするあなたへ……」，静岡県立子ども病院講演会，2006.9.19，静岡県立子ども病院
27. 「ケアのゆくえ：倫理と法を越えて」，静岡大学公開講座「対人援助の倫理と法」，2006.11.29，静岡市産学交流センター
28. 「ケアのゆくえ：倫理と法を越えて」，富士宮市社会福祉協議会，2006.12.12，富士宮市役所
29. 「北欧の高齢者ケア視察研修報告」，平成 19 年度第 6 回「臨床と法」研究会，2007.11.22，静岡大学法科大学院法廷教室
30. 「医療従事者としての倫理」，平成 19 年度看護共通Ⅱ・Ⅲ「臨床看護における倫理的対応」，2007.12.4，日本看護協会神戸研修センター
31. 「緩和ケアと尊厳」，第 110 回ホスピスケア研究会，2008.1.13，東京ファッションタウンビル
32. 「現代医療における看護の力―ケアの人間学から―」，愛生会看護専門学校卒業記念講演，2008.2.27，愛生会看護専門学校 5F ホール
33. 「終末期と高齢者のケア―ケアの現象学的人間学から臨床哲学へ―」，第 3 回医療人文学研究会，2008.4.23，大阪大学待兼山会館
34. 「ケアの人間学―在宅ケアのゆくえ―」，静岡県地域包括・在宅介護支援センター協議会，2008.4.26，静岡市産学交流センター
35. 「ケアしケアされる存在としての人間」，東葛・生と死を考える会・月例学習会，2008.7.19，麗澤大学
36. 「緩和ケアと尊厳」，がんコンソーシアム in 徳島，2008.10.4，徳島県立中央病院
37. 「ケアすること―ケアされること―」，天竜厚生会看護職員向け研修会，2008.12.9，天竜厚生会研修センター
38. 「リビング・ウィルを考え直す」，患者のウェルリビングを考える会，2009.1.17，神戸市・あすてっぷ KOBE
39. 「ケアするということ」，卒業記念講演，2009.3.4，静岡県中部看護専門学校
40. 「北欧研修旅行報告（第 2 弾）」，科研費プロジェクト「ケアの現象学」第 1 回ミーティング，2009.6.14，東京大学哲学研究室
41. 「「ケア」の根底にある哲学」，第 46 回〈ケア〉を考える会，2009.6.21，京都市中京区 GL マンション
42. 「ケアの人間学（1）・（2）」，京都労働学校「人間学講座」／第 5・6 回，2009.11.5+12，京都市・ラボール学園

43. 「ケアの現象学のために―英国ホスピスケアから北欧ケアへ―」，介護福祉研究会，2010.3.31，聖隷クリストファ大学
44. 「ケアのゆくえ：倫理と法を越えて」，浜松医科大学看護学科「看護倫理」，2010.5.10，浜松医科大学
45. 「脳死移植が変わる」，大阪大学医学部現代教育科目「現代の生命倫理・法・経済を考える」，2010.6.15，大阪大学医学部
46. 「リビングウィルについて」，市立砺波総合病院緩和ケア勉強会「終末期を考える―最期に私たちは何を選択できるのか―」，2010.7.24，市立砺波総合病院
47. 「尊厳死について」メディカル・カフェ，2010.9.26，カフェ P ／ S
48. 「生老病死について」連続講座「老いのこと、ちょっと考えてみませんか」，第 1 回，2010.10.23，尼崎市東園田町会会館
49. 「ケアの人間学（1）・(2)」，京都労働学校「人間学講座」，2010.11.5+12，京都市・ラボール学園
50. 「中欧から現代を考える」，「グローバリズムと哲学的思考」第 9 回，2010.12.8，大阪大学豊中キャンパス
51. 「終末期を考える―尊厳死―」，第 40 回「ケアの人間学」合同研究会，2011.1.22，静岡市立静岡看護専門学校
52. 「死と向き合うこと」，東神戸病院緩和ケア病棟主催「ホスピスボランティア講座」，2011.9.24，六甲道勤労市民センター
53. 「ヒューマン・ケアと人間観―いのちの暮らしと人生を支える―」，人間福祉学会，2011.11.19，岐阜都ホテル
54. 「死生観が必要である」，第 2 回高齢者ケア・フォーラム，2012.2.19，キャンパスプラザ京都
55. 「北欧ケアに哲学はある？」，「ケアの臨床哲学」研究会主催シンポジウム「高齢社会のなかで北欧ケアを考える」，2012.5.5，大阪大学中之島センター
56. 「北欧ケアの人間学」，第 44 回「ケアの人間学」合同研究会，2012.6.16，静岡市立静岡看護専門学校
57. 「現代日本における死をめぐる状況」，ハイデルベルク大学翻訳・通訳研究所，2012.7.18，ハイデルベルク大学翻訳・通訳研究所
58. 「現代日本社会における“生老病死”」，ライン・ネッカー友の会，2012.7.26，ハイデルベルク大学日本学研究所
59. 「現象学と生きること」，熊本現象学を学ぶ会，2012.9.30，菊南温泉ユウベルホテル
60. 「哲学者と考える高齢者ケア」，神戸学院大学社会人キャリアアップ講座高齢者ケアキャリアアップコース講義，2012.10.8，神戸学院大学
61. 「事前指示書をめぐるドイツの現状」，シンポジウム「高齢社会のなかでリビングウィルと事前指示書を考える」，2012.10.27，大阪大学中之島センター
62. 「現代日本における死をめぐる状況」，玉川大学学術研究所人文科学研究センター平成 24 年度第 2 回公開講演会，2012.11.10，玉川大学
63. 「医療と福祉をつなぐケア学」，鳥取県福祉研究学会第 6 回研究発表会記念講演，2013.2.23，鳥取県立福祉人材研修センター
64. 「「二・五人称の医療」とは」，第 268 回川崎医学会講演会，2013.8.5，川崎医科大学附属病院
65. 「生きるということ―禅と臨床哲学の立場から自らの生老病死を考える―」，DeJaK-友の会，2013.11.16，ドイツ・デュッセルドルフ日本クラブ
66. 「人と、他者とどう向き合うか」，神戸学院大学キャリアアップ講座「良いケアを実現するために」，2014.1.19，神戸学院大学
67. 「“リビングウィル”について、法制化されたドイツの事情を聞きます」，フォアベルク，2014.2.1，フォアベルク神戸ショールーム
68. 「身近な人を葬送するために何が必要ですか？」，中之島哲学コレージュ，2014.5.28，アートエリア B1

69. 「二人の母を見送った体験から」，かいご・かんご塾胡桃，2014.6.8，大阪市空堀商店街
70. 「「事前指示」「リビングウィル」とは？―人生の最終段階を考える―」，〈ケア〉を考える会−岡山，2014.6.14，川崎医療福祉大学
71. 「ホスピスの臨床哲学　日本とヨーロッパの見聞録」，第 6 回ホスピス学校，2014.7.5，山梨県文学館
72. 「事前レクチャー「いつかくる死のことを考えておきたい」」，第 22 回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 in 神戸，2014.7.12，神戸ポートピアホテル
73. 「保健医療の現場で当事者の価値に寄り添う倫理とは」日本社会福祉会・日本医療社会福祉協会主催「保健医療分野におけるソーシャルワーク専門研修第 10 期スクーリング」，2014.8.30，エルイン京都
74. 「二人の母を見送った体験から」，高齢者ケア人材養成キャリアアップ講座，2014.11.9，神戸学院大学
75. 「人間関係の病いとしての認知症―スウェーデンと日本の認知症ケアの比較―」，高齢者ケア人材養成キャリアアップ講座，2014.11.9，神戸学院大学
76. 「医の倫理：言葉の不思議さ、重要性について」，第 47 回東洋鍼灸医学大講演会「はり・きゅうのことを知って心身を養生」，2014.11.16，芝蘭会館稲森ホール
77. 「意思決定支援のあり方」，第 2 回高齢者障がい者なんでも相談会総括フォーラム，2015.3.7，岡山きらめきプラザ
78. 「尊厳死って何ですか？」，2015 年度第 1 回リビングウィル勉強会，2015.4.5，神戸市勤労会館
79. 「さまざまなケア場面での「在宅・地域ケア」への動きから考える」，第 41 回日本保健医療社会学会 大会テーマ「生活モデルへ転換」，2015.5.17，首都大学東京
80. 「生老病死について」，2015 年度第 2 回リビングウィル勉強会「腎不全になったら」，2015.6.20，兵庫県立生活創造センター
81. 「リビングウィル（どう生きるか？）について」，講演会・シンポジウム「あなたは最期をどのように暮らしたいですか？―在宅ホームホスピスとは―」，2015.7.4，旭区民センター
82. 「エンディングノートとリビングウィル」これからの葬送を考える会九州例会，2015.8.1，大分市妙瑞寺
83. 「いつかやって来る死のことを考えておきたい」，老い支度教室「エンディングノートを書こう」，2015.10.3，神戸生活創造センター
84. 「依存と自立の対立を越えて」，「マイケアプラン研究会」第 179 回 1 月定例会，2016.1.15，ひと・まち交流館京都
85. 「リビングウィルを法制化する必要があるのか？」，2015 年度第 4 回リビングウィル勉強会，2016.2.6，あすてっぷ KOBE
86. 「北欧ケアの思想的基盤を求めて」，公開ラウンドテーブル「北欧ケアの思想的基盤を掘り起こす」，2016.2.20，中之島センター
87. 「障がいをもちながら老いることと、老いるとともに障害をもつことの間」，2015 年度第 5 回リビングウィル勉強会「障がいをもつこと、老いること―障害者の自立支援と「65 歳」問題（介護保険優先の規定）―」，2016.4.17，あすてっぷ KOBE
88. 「植物状態になったら―脳死とどうちがうの？―」，2016 年度第 3 回リビングウィル作成会「植物状態になったら」，2016.6.4，あすてっぷ KOBE
89. 「セデーションについて知る、考える」，2016 年度第 4 回リビングウィル作成会「がんになったら」，2016.9.3，東灘区民センター
90. 「こころの苦しみ～終末期鎮静を考える～」，姫路聖マリア病院緩和ケア病棟 20 周年企画「こころの時代の緩和ケア」，2016.10.29，姫路聖マリア病院
91. 「看護ケアにおける臨床哲学的アプローチ」，甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科開設 10 周年記念講演，2016.11.26，甲南女子大学
92. 「老いと若さの対立を越えて」, 第 48 回大阪大学公開講座, 2016.12.9, 大阪大学中之島センター

93. 「ケアの臨床哲学～生老病死の現場から～」, 椙山女学園創立111周年記念椙山フォーラム「ヒト・ひと・人」, 2016.12.10, 椙山女学園大学
94. 「ACP を知る～ ACP の功罪～」, 2016 年度第 5 回リビングウィル作成会「エンディングノートとリビングウィルノート」, 2017.1.21, あすてっぷ KOBE
95. 「海外との比較でケアを考える」, シンポジウム「超高齢社会のなかでこれからのケアを考える」, 2017.2.26, 大阪大学中之島センター
96. 「ドイツの介護保険、後見人制度、事前指示書」, 講演会「超高齢社会のなかドイツに学ぶ」, 2017.3.4, 大阪大学中之島センター
97. 「フッサール現象学における「能力と障がい」の問題について」, 2017.3.8, 中国・广州中山大学
98. 「現代日本における終末期医療の問題」, 2017.3.13, 中国・香港中文大学
99. "Feminist Phenomenology: Perspectives from Japan", The Seminar in Feminist Continental Philosophy in Stockholm, 2017.6.12, Stockholm University, Stockholm（Sweden）
100. 「看護の原点を見つめて―臨床哲学の視点から―」, 第 18 回日本赤十字看護学会学術集会特別講演, 2017.6.24, 北九州国際会議場
101. 「高齢者ケアにおける自己決定を考える」, 〈ケア〉を考える会（第 113 回）, 2017.7.9, 京都市山科区の民家
102. 「事前指示と事前ケア計画の比較」, シンポジウム「超高齢社会のなかで ACP（アドバンス・ケア・プラニング）を考える, 2017.7.23, 大阪大学中之島センター
103. 中山大学心理健康教育センター主催連続講座,「現代日本における精神医療」2017.9.1；「現代日本における医療倫理」, 2017.9.21, 広州中山大学付属第三病院（中華人民共和国）
104. かなしみポスト主催 3 回連続講座「かなしみとともに生きる社会へ」, 1）2017.10.7,「老いとともに生きる」; 2）2017.10.14,「病いとともに生きる」; 3）2017.10.21,「死を見つめて生きる」, 大阪大学中之島センター
105. 「グループホームでの義母の看取り」, まちなかカフェ風（ふう）「看取り」セミナー＆カフェ第 1 回「食べるということ」, 2017.11.18, 神戸市東灘区民センター
106. 「日本における終末期ケアの現状」, 東アジア研究センター・日本学研究所・翻訳通訳学科共催講演, 2017.11.28, ハイデルベルク大学（ドイツ）
107. 「意思決定支援について」, 庄内地域包括支援センター, 2017.12.16, 豊中市労働会館
108. 「日本における終末期ケアの現状」, 大阪大学「ケアの臨床哲学」研究会, 2018.2.11, 大阪大学中之島センター
109. 「日本における終末期ケアの現状」, 東京大学大学院人文社会系研究科　死生学・応用倫理センター, 2018.2.14, 東京大学法文 2 号館一番大教室
110. 「現象学・臨床哲学・倫理学を繋ぐ」, 最終講義, 2018.3.9, 大阪大学豊中キャンパス豊中総合学館
111. 「大阪大学での 10 年を振り返る―「ケアの臨床哲学」研究会がめざしたこと―」, 最終講演会, 2018.3.31, 大阪大学中之島センター
112. 「終末期ケアの現状と課題～「苦しむ人と共に考える」視点から～」, 新時代の日本を考える兵庫フォーラム, 2018.4.25, ひょうごボランタリープラザセミナー室

Ⅴ. その他

【書　評】

1. 新田義弘著『哲学の歴史』（講談社, 1989 年）, 1990.2.26, 『週刊読書人』
2. エトムント・フッサール（山口一郎・田村京子訳）『受動的綜合の分析』（国文社, 1997 年）, 1998.10.31, 『現象学年報』（日本現象学会）第 14 号, pp.245-252
3. マイケル・ダメット（野本和幸ほか訳）『分析哲学の起源』（勁草書房, 1998 年）, 1999.4.2, 『週刊読書人』
4. 新田義弘（編）『フッサールを学ぶ人のために』（世界思想社, 2000 年）, 2000.11.17, 『週刊

読書人』
5. マルク・リシール『身体―内面性についての試論』（ナカニシヤ出版，2001 年），2002.3.1,『日経サイエンス』2002 年 3 月号，p.123
6. 貫成人『経験の構造―フッサール現象学の新しい全体像』（勁草書房，2003 年），2003.10.17,『週刊読書人』
7. 佐藤泰子『苦しみと緩和の臨床人間学―聴くこと、語ることの本当の意味―』（晃洋書房，2011 年），2012.3.20，京都大学大学院人間・環境学研究科編『人環フォーラム No.30』，p.49

【辞典等項目執筆】

1. 木田元ほか編『現象学事典』（弘文堂），「コミュニケーション」「自我論」「自己移入」「対化」「『デカルト的省察』」「モナドロジー」「異他性／親近性」「共遂行」「共同体」「原初的」「故郷世界／異郷世界」「固有領域」「独我論」の 13 項目執筆，1994.3
2. 村田純一編『新・哲学講義（4）』（岩波書店），定義集「間主観性」「志向性」「分裂病」の 3 項目執筆，1998.2
3. 廣松渉ほか編『哲学・思想事典』（岩波書店），「他我問題」「他者性」「匿名性」「感情移入」の 4 項目執筆，1998.3
4. 『アエラムック　現代哲学がわかる。』（朝日新聞社），「フッサール」の項目執筆，2002.2, pp.20-23
5. 大澤真幸・吉見俊哉・鷲田清一編／見田宗介編集顧問『現代社会学事典』（弘文堂），「他者認識」「対他的存在」「死の定義」「共同主観性」，2012.12

【小文など】

1. 「他者との共生―『フッサール間主観性の現象学』の刊行に寄せて―」，『創文』No.365, 1995.6.1，pp.10-13
2. 「国内情報：インターネットによるフッサール・データベースの公開」，『現象学年報』第 11 号，1996.1.31，pp.85-91
3. 「フッサール・データベースの現状報告」，『情報知識学会ニューズレター』36，1996.2.1, pp.5-11
4. 「インターネットによって利用可能な哲学関係の情報源について」，『情報知識学会ニューズレター』39，1996.8.1，pp.8-13
5. 「現象学とウィーン―フェッター教授の講演に先だって―」，静岡大学哲学会『文化と哲学』第 15 号，1998.3.20，pp.39-50
6. 「国内事情：インターネットは日本現象学会に世界の開けを与える」，『現象学年報』第 14 号, 1998.10.31，pp.253-260
7. 「教育におけるコンピュータの利用―人間学の場合―」，『静岡大学情報処理センター広報』（No.9），1999.3.1，pp.15-25
8. 「「環境ホルモンで人間がキレる」説」，『日経 ECO21』，インタヴュー，2000.3.1
9. 「国内事情：フッサール・ルネサンス―フッサール研究会設立さる―」，『現象学年報』（日本現象学会）第 18 号，2002.11.30，pp.217-221
10. 「コメント：一生の仕事として職業をもつことを考えていますか？」，男女共同参画啓発冊子『ねっとわぁく』，静岡県男女共同参画センター交流会議，2004.10.1
11. 「コラム：子育て（上・下）」，『静岡新聞』，2005.5.30+6.7
12. 「「地域で育てる対人援助（心理臨床・ヒューマンケア）」，『みんなの大学』Vol.7「特集＜産学連携イベント＞」，2006.4.20
13. 「ケアという共同行為にともに参加する―ケアする人のケア―」，静岡県ボランティア協会編『ボランティア情報静岡』：特集『混迷する今　ケアする人のケアを』，2007.8
14. 「医療者が死に向き合うことについて（座長まとめ）」，日本臨床死生学会 Vol.16, No.1（共著・文責），2012.3

15. 「いつかやって来る死のことを考えておきたい」，患者のウェル・リビングを考える会編『大切なあなたに「伝えておきたいこと」ファミリー・リビングウィル』，2012.3
16. 「高齢者のための臨床哲学」, コラム「ドイツで迎える老後のお話」,『Doitsu News Digest ニュースダイジェスト，1』「生きるということ」（2013.11.1）；2）自律と連帯が共存する社会（2013.12.6）；3）終活は生き方と逝き方を語り合うこと（2014.1.3）
17. 「「好きにさせて」とは、どういうことか？」，My Car Plan News 第 164 号，2016.2，pp.1-2
18. 「「ホーム」の意味について考える」，竹之内裕文・浅原聡子編『喪失とともに生きる』：5 章「ホームを失って生きる―路上生活者の語りから―」へのコメント，2016.4，pp.193-198
19. 「巻頭言」，上智大学グリーフケア研究所編『グリーフケア』第 6 号，2018.3.28，p.1

Ⅵ. 科学研究費補助金等外部資金（代表のみ、分担は略）

1. 科学研究費研究成果公開促進費，1995 年度 , 単著『フッサール間主観性の現象学』刊行
2. 科学研究費研究成果公開促進費（データベース），1994 年 4 月～ 1997 年 3 月,「フッサール・データベース」の公開
3. 科学研究費・基盤研究（C-2），2000 ～ 2001 年度，研究課題「いのちとこころに関わる現代の諸問題の現場に臨む臨床人間学の方法論的構築」（代表：松田純から 2 年目引き継ぐ）
4. 科学研究費・基盤研究（B-1），2002 年度～ 2004 年度，研究課題「新資料・新研究に基づく、フッサール現象学国際的研究の新しい地平の開拓」
5. 科学研究費・基盤研究（B），2005 年度～ 2007 年度，研究課題「対人援助（心理臨床・ヒューマンケア）の倫理と法、その理論と教育プログラム開発」
6. 科学研究費・基盤研究（B）（海外学術調査），2010 年度～ 2012 年度，研究課題「北欧ケアの実地調査に基づく理論的基礎と哲学的背景の研究」
7. 科学研究費・基盤研究（B）（海外学術調査），2013 年度～ 2015 年度，北欧の在宅・地域ケアに繋がる生活世界アプローチの思想的基盤の解明
8. 課題設定による先導的人文・社会科学研究推進事業「実社会対応プログラム」，2013 年度後期～ 2015 年度前期,「ケアと支え合いの文化を地域コミュニティの内部から育てる臨床哲学の試み」
9. 大阪大学「国際シンポジウム開催支援事業」，国際シンポジウム Finnish-Japanese Research Collaboration: International Symposium “Phenomenology of Vulnerability and Limits”, 2016.3.1-3
10. 科学研究費・基盤研究（B）（一般），2016 年度～ 2019 年度,「北欧現象学者との共同研究に基づく人間の傷つきやすさと有限性の現象学的研究」
11. 科学研究費研究成果公開促進費，2017 年度，編著『北欧ケアの思想的基盤を掘り下げる』刊行

Ⅶ. 賞　罰

2011 ～ 2016 年度　6 年連続で大阪大学文学研究科「優れた教員」として表彰された。